

労使で元気な群馬に！

2018新春労使共同セミナー・交流会開催



1月16日、前橋テルサにおいて、2018新春・労使共同セミナー及び交流会

を（一社）群馬県経営者協会と共同で開催し、来賓・企業・労働組合の役員など400名が参加しました。

経営者協会と共同で、新春を祝う会として実施するのは全国でも珍しく、今回で16回目となりました。

富澤会長は挨拶で、「労使という、それぞれ置かれている立場は違ってもお互いを尊重しつつ、良きパートナーとして現在に至っている。県内すべての職場、働く人たちにこの良好な労使関係を波及させ、元気な群馬県にしていきたい思いがある。引き続き連携を宜しく願いたい」と述べられました。

第1部のセミナーでは、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事であり、現役のパラ水泳選手として活躍されている成田真由美さんを講師に迎え、「自分の可能性を求めて」と題して講演をしていただきました。



成田さんは、中学生の時に「横断性脊髄炎」を発症し、下半身不随となり、23歳の時に水泳に出会い、47歳となった現在でもトップスイマーとして障がい者スポーツ界で活躍されています。アトランタから北京まで4大会連続でパラリンピックに出場し、金メダル15個、合計20個のメダル獲得し、その後一線を退きましたが、2016年のリオデジャネイロパラリンピックで復活を果たし、個人3種目で決勝に残り、メダルには及ばなかったものの、日本新記録を樹立しました。

競技生活の中で培った「自分でゴールを決めてしまえばそこで終わり。『だめだ』と思うのも自分で、『やるぞ』と思うのも自分の気持ちだったら、『やるぞ』と前向きにやる方がいい。足が動かない分、心を動かしていくことを常に思っている」と話され、最後に2年後の東京パラリンピックについて「障がい者について、意識を変えて欲しい。是非、ボランティアなど参加して競技を身近に感じて欲しい」と東京パラリンピックや障害者への理解を求めています。

会場を移し、第2部の交流会では、県内の政労使が一堂に会し、新春の交流を行いました。



パラリンピックの貴重な金メダル。重たい！そして点字があるんですね。パシャリ



政策実現には議員の力

群馬県議会報告 加賀谷富士子県議

「教員の多忙化解消」など一般質問



群馬県議会・平成29年第3回定例会は、9月20日から12月15日までの87日間の会期で開催。連合群馬議員懇の加賀谷県議は、12月5日に「教員の多忙化解消について」一般質問を行いました。連合群馬

の今年度の「政策・制度要求と提言」においても、教職員の働き方改革として労働時間管理と短縮に向けた環境整備を大澤知事に要請しています。今後の動向に注目していきましょう。

Q.（加賀谷県議） 中学校教員の長時間労働の要因のひとつとして、部活動があげられる。その要因解消に向けて、中学校長会と中体連の申し合わせ事項が見直され、スポーツ庁も今年度中に部活動ガイドラインを策定する予定となっている。また、県では教育委員会で作成している中学校・高等学校運動部活動指導資料もあり、国からガイドラインが策定された場合、申し合わせ事項や中学校・高等学校運動部活動指導資料との整合性をど

のように保つのか。

A.（教育長） 教育委員会としても教職員の多忙化解消は重要課題と捉えている。昨年5月におこなった、群馬県教員の勤務状況実態調査の結果では、中学校教員の7割以上が部活動に多忙観を持っていることがわかった。教育委員会としては、国の動向を踏まえ、休養日や活動時間の設定などの具体的な対策を取りまとめ、教育の更なる充実を図るために学校における部活動指導の指針となる、中学校・高等学校運動部活動資料の改定をおこなう。各市町村の教育委員会と連携し、県全体で足並みをそろえて取り組んでいきたい。

Q. 部活動のあり方については、保護者の意見も大切である。あり方や方針によって、理解を求める方策が必要ではないか。

A. 協議会には小・中・高校のPTA代表者の方に参加をいただいている。改善策を決めていく段階では代表者と連携し、すべての保護者に理解をしていただけるよう取り組んでいきたい。

